

さず。而を律宗・成實宗等の十方有佛・有佛性など申は佛滅後の人師等の大乘の義を自宗に盗入たるなるべし。例せば外典外道等は佛前の外道は執見あさし。佛後の外道佛教をきゝみて自宗の非をしり、巧の心出現して佛教を盗取、自宗に入て邪見もつともふかし。附佛教・學佛法成等これなり。外典も又々かくのごとし。漢土に佛法いまだわたらざつし時の儒家・道家は、いゝうとして嬰兒のごとくはかなかりしが、後漢已後に釋教わたりて對論の後、釋教やうやく流布する程に、釋教の僧侶破戒のゆへに、或還俗して家にかへり、或は俗に心をあはせ、儒道の内に釋教を盗入たり。止觀第五云、今世多有惡魔比丘、退戒還家、懼畏駭策、更越濟道士、復邀名利、誇談莊老、以佛法義、偷安邪典、押高就下、摧尊入卑、概令平等云云。弘云、作比丘身、破滅佛法。若退戒還家、如衛元嵩等。即以在家身、破壞佛法。○此人偷竊正教、助添邪典。○押高等者、○以道士心、爲二教概、使邪正等。義無是理。曾入佛法、偷正助邪、押八萬十二之高、就五千二篇之下、用釋彼典邪鄙之教、名摧尊入卑等云云。此の釋を見るべし。次上の心なり。佛教又かくのごとし。後漢の永平に漢土に佛法わたりて、邪典やぶれて内典立。内典に南三北七の異執をこりて蘭菊なりしかども、陳